

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 12月 22日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 10分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム はまゆう (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>原田 育子</u> ヒアリングを行った職員数 2 名

※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105016号		
法人名	医療法人 浜友会		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	鹿児島市喜入町6976番地1 (電話) 0993-45-0099		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月4日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,000 円	その他の経費(月額)	1日 300 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	84歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人浜友会浜田病院・鹿児島生協病院・大山歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者と会話しゆっくり関わることを大切にしているホームである。管理者は経験豊富なベテランであり、信念をもって日々のケアに従事している。職員は日々の入居者一人ひとりの心身の状況をしっかり把握し、職員自らが心を開き優しく入居者を受け止めようと努めている。継続医療で24時間医療連携体制もあり、家族・職員の安心となっている。また、催し時に運営者が行なうマジックショーは入居者の楽しみで笑顔いっぱいとなる。入居者・家族・職員等がホッとくつろげる温かく安心感のあるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時対応の備蓄は改善されている。夜間想定での災害訓練は継続検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、出された意見を集約している。日々のケアの再確認と反省の機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの行事や自己評価・評価結果などについて報告し意見交換をしている。認知症やグループホームを理解してもらい機会となっている。具体的な取組みとして自治会に加入するなど会議を活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置して家族の訪問時や家族会などを利用して、気軽に意見を出せるように努めている。大きな苦情などは今のところないが、日々のケアの意見などが出されており職員で協議し最善の対応に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し清掃活動・夏祭り・運動会・文化祭などの地域行事に参加している。学生の体験学習やボランティアの受け入れ・近隣の小学生が気軽に立ち寄るなど、日々地域住民と交流しており良好な関係作りができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を中心に個人を尊重し、家族と共に地域の中で、入居者が「ごく普通の毎日の生活」を幸せに過ごしてもらうことで地域社会へ貢献することを目指したホーム独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時の説明や理念の掲示、朝の申し送り時や職員会議などを利用した理念の唱和などにより職員の意識付けを図っている。入居者中心のケアなど、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し清掃活動・夏祭り・運動会・文化祭など地域の行事に参加している。学生の体験学習やボランティアの受け入れ・近隣の小学生が気軽に立ち寄るなど、日々地域住民と交流しており良好な関係作りができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、出された意見を集約している。日々のケアの再確認と反省の機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの行事や自己評価・評価結果などについて報告し、意見交換などしている。認知症やグループホームを理解してもらう機会となっている。出された意見により自治会に参加するなど会議を活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や介護保険・税務関係など、随時相談連携を図っている。介護相談員の受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者毎に担当職員を定め、家族の訪問時や状況に応じた随時の電話連絡などで近況や心身の状況、金銭管理、新規職員など報告をしている。ホーム新聞も年2回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族の訪問時、家族会など利用して気軽に意見を表せるよう努めている。大きな苦情などは今のところないが、日々のケアの意見などが出され、職員で協議し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係づくりを大切にし、離職を最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合、離職のタイミングや業務の引継ぎをしっかりと行い、職員同士連携を図っている。入居者への影響を防ぐよう職員との関係作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等を考慮した内部研修を毎月している。外部研修は資格や役割に応じた研修に参加し、伝達研修などで情報を共有している。勤務を調整するなどして看護師や介護福祉士等の資格取得も応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会に加入している。研修会や交流会に参加して意見交換をするなど相談協力しながら共に質の向上を図っている。職員は特技を活かし他の事業所に慰問に出向くなど相互訪問もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家庭訪問や本人等のホーム見学などを通し、徐々に馴染めるよう配慮している。傾聴に心がけ、家族と相談しながら入居者や家族と早く信頼関係が築けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事など入居者個々の力を発揮してもらっている。職員は入居者の思いを知り、一緒に過ごし支えあうように努め、入居者から感動をもらったり励みをもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態や睡眠状況を把握し、表情や動作、傾聴することにより、本人の思いや意向の把握に努めている。カンファレンスや職員会議等で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向・主治医の意見・カンファレンス等での職員の意見などを反映させた個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直している。日々の状況把握をし、毎月モニタリング、評価を実施している。心身の状況に応じて随時介護計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の意向や状況に応じ、通院支援や自宅訪問・墓参りなど、外出支援をしている。24時間医療連携体制もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が多く、継続医療ができています。各医療機関とは情報交換や相談連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期への対応指針を説明し同意を得ている。状況に応じて本人や家族の意向を踏まえ、主治医・職員とも協議している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は家庭的な雰囲気を大切にしながら、誇りやプライバシーに配慮した優しくさりげない言葉かけや対応を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入居者の意向や状況に応じ、起床時間や食事・行事参加・入浴・散歩など、本人のペースに応じた柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見・盛り付け・台拭きなど、個々のできることをしてもらっている。入居者と職員は共に和やかな食事をしている。菜園から採れた新鮮な野菜を収穫して食することでより楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週金曜日は浴室消毒乾燥日であるが、それ以外は入居者の意向や状況に応じて毎日入浴できる。入浴が億劫な入居者には工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや盛り付け・塗り絵・音楽・園芸・洗濯物たたみ・ドライブなど、個々に応じた役割や好み・楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出かけられるよう毎日声かけをしている。散歩や買い物ドライブなど入居者の意向や状況に応じ外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解している。日中は鍵をかけないケアを基本としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は消防署の指導のもと定期的に実施し、災害時の備蓄がされ、近隣者にも協力を働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分の摂取量を把握している。栄養士のつくった献立で栄養バランスは確保されている。おにぎりなどの食事形態の工夫など入居者の個々の意向や状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、音や光に配慮され、花や装飾品など季節感を採り入れている。明るく穏やかな雰囲気があり、入居者の身体状況に即したテーブルの設置や畳の活用など居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室らしく、タンス・仏壇・ちゃぶ台・テレビ・習字道具・裁縫道具・お茶セットなど、各々持ち込まれている。安全面や心身の状況に配慮した個性ある居室である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。